Interface

No.3

April 2011

熊本大学国際化推進センターニュース

The News Letter of the Center for Globalization, Kumamoto University

短期留学コース紹介

熊本大学短期留学制度は、外国の協定大学の正規課程に在籍する外国籍の学生を対象とした短期留学制度で、日本語習得、日本及びアジアの社会文化、先端の科学技術、諸外国の学生との交流等に関心を持つ学部レベルの外国人学生に、母校に在籍のまま１年間を最長とする短期留学の機会を提供しています。平成17年度にこの制度が始まり、今までに200名以上の留学生を受け入れて来ました。現在の短期留学コースは、コースⅠ（短期留学プログラム）、コースⅡ（一般短期留学）があり留学生は希望のコースを選び、それぞれの修了要件を満たすと修了証書が発行されます。現在は協定校から約50名以上の留学生が受講しています。

英語による短期留学プログラム科目　授業風景

コースⅠ（短期留学プログラム）

科目名	単位数
英語による短期留学プログラム科目	英語による短期留学プログラム科目12単位以上を含め、1年間で合計20単位以上を取得すること。
日本語・日本事情科目	
・自主研究レポートを提出すること。 ・1学期10単位以上を履修すること。	

コースⅡ（一般短期留学）

科目名	単位数
英語による短期留学プログラム科目	所属学部開講専門科目4単位以上を含み、1年間で合計20単位以上を取得すること。
所属学部開講専門科目及び教養教育科目	
日本語・日本事情科目	
・自主研究レポートを提出すること。 ・1学期10単位以上を履修すること。	

日本語クラス　日本人学生との会話練習風景

熊本大学にはこの他に、日本語・日本文化に関する分野を専攻する学部レベルの留学生を対象とした一年間の国費留学生のためのプログラム（日本語・日本文化研修プログラム）があります。日本語能力を高めると同時に、日本を対象とした研究を行う上で必要となる知識、技能及び社会で役立つ日本語・日本文化に関する様々な知識を身につける事を目指すもので、現在のプログラムにはコースが２つあります。熊本大学では、この国費留学生を今までに120名以上受け入れて来ました。現在は、中国とポーランドからの留学生２名が受講しています。

（1）日本語能力向上コース

日本語能力を高めることを中心に、社会で役立つ日本語・日本文化に関する知識を身につけることを目指すコース。

科目群	取得単位数	備考
日本語科目	12単位	日本語科目12単位、日本事情科目2単位、研究科目6単位を含み、1年間で各科目群から合計26単位以上を取得すること。
日本事情科目	2単位	
研究科目	6単位	
①日本語研究科目	①～④の研究科目群から合わせて6単位以上を取得すること。	
②日本文化研究科目		
③日本語文学研究科目		
④日本社会研究科目		
自由選択科目	日本語科目、日本事情科目、研究科目の科目群から6単位以上を取得すること。	
＊口頭試問に合格し、かつ、修了レポートを提出すること。		

（2）日本事情・日本文化研究コース

日本語能力を高めるとともに、日本を対象とした研究を行う上で必要となる知識、技能を身につけることを目指すコース。

科目群	取得単位数	備考
日本語科目	6単位	日本語科目6単位、日本事情科目2単位、研究科目12単位を含み、1年間で各科目群から合計26単位以上を取得すること。
日本事情科目	2単位	
研究科目	12単位	
①日本語研究科目	①～④の研究科目群から合わせて6単位以上を取得すること。	
②日本文化研究科目		
③日本語文学研究科目		
④日本社会研究科目		
自由選択科目	日本語科目、日本事情科目、研究科目の科目群から6単位以上を取得すること。	
＊口頭試問に合格し、かつ、修了レポートを提出すること。		

また、平成23年４月５日、くすの木会館レセプションルームにて、平成23年度短期留学コース開講式（前期）を行いました。各国の協定校からの留学生12名が出席し、本学での留学の意気込みを日本語で発表しました。

今後留学生は、短期留学制度に則りコースを選択し、英語による短期留学プログラム科目や日本語クラス、専門科目等を受講します。

平成22年度留学生実地見学旅行

日本の歴史・文化等について理解を深め、留学生間及び日本人学生との交流を図ることを目的として、平成23年２月15日～16日にかけて、福岡・山口方面へ留学生実地見学旅行を実施しました。当旅行は、本学で学ぶ留学生とチューターを対象に、毎年企画しているもので、今年は16カ国の留学生116名とチューター４名、引率教職員７名の計127名での旅行となりました。

初日の九州国立博物館では、日本とアジア諸国との文化交流の歴史に焦点をあてた展示を見学し、大宰府天満宮では、伝統的な参拝方法について学び、留学期間中の学問等の成就を祈願しました。

２日目は、赤間神宮、九州鉄道記念館、門司港レトロ地区を見学し、日本の歴史・文化等への認識を深めました。日ごろ顔を合わせることが少ない他部局の留学生と親交を持つ良い機会となりました。

国際化推進センター交流室オープン

全学教育棟A棟２階にありました国際化推進センター交流室を２月中旬から改装していましたが、３月末に完成し、平成23年４月５日に谷口学長、古川国際化推進センター長、鳥居国際化推進センター副センター長に加え４月に学部交換留学生として来学した２名の外国人留学生の５名で、テープカットのセレモニーを行いました。

改装後は、廊下側を全面ガラス張りとし、机・椅子も一新しましたので、明るい環境の中、外国人留学生と日本人学生が自由に交流できる場所となっています。

自転車寄贈式

平成23年２月17日、熊本県銀行協会から、熊本留学生交流推進会議に対し、自転車８台（熊本大学３台、県立大学1台、学園大学２台、崇城大学２台）の寄贈がありました。当日は同銀行協会の上田哲事務局長から目録贈呈の後、鳥居国際化推進センター副センター長からお礼の挨拶がありました。寄贈された自転車は、熊本在留外国人留学生の勉強と生活支援のため活用されます。

自転車目録贈呈

インドネシア・ブラウィジャヤ大学訪問団が本学を表敬訪問

平成 23 年３月２日、インドネシア・ブラウィジャヤ大学より６名の訪問団が生命科学研究部を表敬訪問し、今後の学生交流・学術交流等についての意見交換を行いました。

調印式の様子

また、３月３日には自然科学研究科を表敬訪問し、調印式をとりおこない、本学理学部・工学部・自然科学研究科との部局間交流協定を締結しました。ブラウィジャヤ大学からは過去、自然科学研究科を中心に留学生を受け入れており、今回の表敬訪問と協定締結により、今後のさらなる交流の発展が期待されます。

生命科学系への表敬訪問

平成22年度業務遂行能力向上（国際関連業務スキル向上）研修

実務において留学生、海外の研究者の外国人と効果的・効率的なコミュニケーションを行うスキルを習得することを目的に平成22年度業務遂行能力向上（国際関連業務スキル向上）研修を平成22年９月から平成23年２月まで、毎月2回初級、中級に分け実施しました。

初級では英語の基礎的な文法及び語彙力の習得に重点を置き、自己紹介や道案内など初歩的な英会話やe-mailの書き方や電話応対等について、中級では総合的な英語の運用能力（読み・書き・聞き取り）を高めるとともにより円滑なコミュニケーションを行うために必要な英会話力の習得を目指して行いました。

半年間という長丁場の研修でしたが、初級では15名、中級では10名の事務職員が修了しました。今後も各自研鑽を積みながら、業務で活かすことが期待されます。

「教育の国際化推進のための海外FD研修」第２回目を実施

３月７日から18日まで、本学教員８名をアメリカのカリフォルニア州立大学フラトン校へ派遣し、英語による教授力・コミュニケーション力の向上を目的とする海外 FD 研修を実施しました。

本研修は、本学の国際化推進を積極的に図るための取組として平成22年度より実施しているものです。今回は、英語による教授法の講義、ワークショップ、授業見学、模擬授業等を含むプログラム内容で、帰国後、派遣教員からは「研修を通して日米での共通点・相違点など多くを学ぶことが出来た。今後自身の授業で活かしたい」という感想が寄せられました。

派遣教員は、後日開催する報告会で本研修における成果等について発表を行う予定です。

授業風景

各キャンパスに国際業務推進員を配置

国際化推進センターでは、留学生のみなさんを中心に利便の向上を図るため、黒髪北、黒髪南、本荘・九品寺、大江地区のキャンパスに国際業務推進員３名を置き、それぞれのキャンパスで手続きなどが済ませられるようにしました。

留学生の入国管理、奨学金、国際交流会館・アパート入居などの手続きのサポート、海外留学を希望する日本人学生のサポートや、留学生からの相談に対応します。

ご質問・ご不明な点は、国際戦略ユニットまでお問い合わせください。

ラオス国立大学での日本語教育調査

国際化推進センター・国際語学部門
今西　利之・松瀬　成子

ラオス国立大学日本語学科

2011年３月１日、２日の両日、国際語学部門の日本語教育担当教員２名が、ラオス国立大学（ラオス、ヴィエンチャン市）を訪問しました。ラオス国立大学では2003年、文学部に日本語学科が設置され、本学には2009年に初めて留学生が１名やってきました。この３月、ラオス国立大学と本学で交流協定が結ばれることになり、今後交換留学生の受け入れなど、交流が深まることが期待されます。

ラオス国立大学の日本語学科は１学年20名程度で、１～５年生合計95名が在籍し、日本語や日本文化を学習しています。2010年夏に日本政府の支援で待望の学科専用校舎が完成し、教員室等を含め６室からなる２階建て校舎を学生たちが丁寧に掃除し、みんなで大切にしている姿が印象的でした。

日本語学科のカリキュラム等について日本語教育担当者との情報交換を行い、さらに実際に日本語のクラスを見学させていただき、教授法や学生の様子についても観察することができました（詳細は『国際化推進センター紀要２号』に掲載）。

これからの発展に向けて一歩一歩進んでいく同学科と日本語教育を通して密接な協力関係が構築できたらと願っています。

日本語の授業風景

国際交流協定（平成23年1月～3月　新規締結分）

大学間／部局間		大学名	国　名	学術／学生
大学間		北京工業大学 Beijing University of Technology	中華人民共和国	学術／学生
部局間	生命資源研究・支援センター	Mary Lyon Centre, MRC Harwell	英　国	学　術
	理学部 工学部 大学院自然科学研究科	ブラウィジャヤ大学 University of Brawijaya	インドネシア共和国	学術／学生
	工学部 大学院自然科学研究科	デ・ラ・サール大学（マニラ） De La Salle University-Manila	フィリピン共和国	学術／学生

リーズ大学留学体験記

文学部文学科４年
町　尚吾

2009年８月から約１年間、僕はイギリスのリーズ大学に留学しました。リーズはロンドンから電車で二時間半の場所にある北部イングランドの大都市で、工業・商業都市として発展してきた街です。学生数３万人を誇るリーズ大学には世界中からの学生にあふれており、様々な訛りの英語が飛び交うキャンパスで一年間を過ごすことができました。授業では自分の言いたいことが英語で言えない歯がゆさによく悩まされました。しかし、焦らず、自分のペースで日々を過ごすことの大切さを痛感しました。交換留学生は様々な分野の授業を選択して受講することができ、僕は、日本学部、東アジア学部、教育学部の授業を中心に受講しました。その中でも、日本学部の授業で、歴史的な議題を扱うときにはイギリスと日本の価値観の違いから葛藤もありましたが、そこから学んだことも多くあるように思います。

イギリス留学の一つの醍醐味は何と言ってもヨーロッパ諸国に出かけやすいことです。格安航空網や鉄道網が発達しているので、僕も留学中には二度イギリスを出て11ヶ国を一人旅しました。この冒険は留学生活の中でも非常に貴重な経験でした。

留学するには金銭面、就職活動、卒業の時期など多くのことを考慮しなければなりません。しかし、留学する機会も今しかない、と留学を決意しました。もちろん、留学せずとも英語力は磨けるし、留学生と交流すれば国際交流もできます。しかし、「外国で暮らした経験」は留学でしか得られない留学の醍醐味なのです。人生を長い目で見たときに、その経験こそが人生の大きな糧になると僕は確信しています。帰国してあるとき、落ち込んでイギリスの友人に相談したことがありました。すると彼は「いつでもイギリスへ帰っておいで」と言ってくれました。「僕を迎え入れてくれる場所ができたこと」が一番の留学の醍醐味かもしれません。

東亜大学サマーセッションに参加して

法学部法学科4年
後藤　麻利子

平成22年8月に２週間、韓国・釜山の東亜大学サマーセッションに参加しました。熊本大学からは５名が参加しましたが、日本全国の大学から集まっており、日本人学生40名程の規模の大きいものでした。

プログラムでは、午前中は主に韓国語講座を受け、午後には名所・旧跡や博物館を見学したり、工芸品やキムチ作りをするなど、韓国の歴史と伝統文化を学びました。

また、プロ野球観戦、遊園地、公演観覧などもプログラムに含まれており、自由時間には釜山の中心街や、現地の学生いきつけのお店に連れて行ってもらうなど、活気に満ちた韓国の様子を肌で感じることができました。

韓国は、異国でありながらも町並みや人々などの見た目は日本に似ています。しかしやはり国が違うと文化は違い、特に行動やコミュニケーションのとり方には、カルチャーショックを受けることもしばしばありました。言葉が通じないこと、慣れない寮生活、日本に対する感情など、はじめのうちは不安なことも多かったのですが、日本語が上手な学生サポーターが朝から晩までつきっきりで、親身になってサポートしてくれて、すぐに楽しい生活を送れるようになりました。サポーターの方だけでなく、釜山の人々も情に厚い人が多く、困っていたら見知らぬ人でも積極的に手助けをし、一度仲良くなったら家族のように接してくれます。今では韓国の人々の情熱、暖かさ、活気にすっかり魅了されてしまいました。

日本人・韓国人問わず多くの友達を作ることができ、また自分自身の視野が広がったと感じます。本当に有意義なプログラムでした。

留学生からのメッセージ

中国　　葉俊　自然科学研究科環境共生工学専攻新Ｄ１

初めまして、自然科学研究科環境共生工学専攻新Ｄ１の葉俊です。2008年10月に日本に来て、今年で３年目になります。出身地は中国浙江省ですが、大学卒業後、大学の先生から紹介され、熊本大学博士前期課程に入学しました。

私は熊本市における移動アクティビティに着目した低炭素社会に向けた都市構造に関する研究をテーマにしました。低炭素社会の実現へ向けて、都市活動による環境負荷の低減は避けることのできない課題となっており、中でも移動アクティビティによる排出されるCO_2の削減は、重要な課題の一つとして注目されています。熊本市においては市街地の郊外への拡大や公共交通機関利用者の減少により、自動車への依存が増加し、環境負荷が増大しています。この問題に対して、中心市街地と地域・生活拠点が相互に連携した都市構造の形成を一つの方針として、交通・都市構造の面で交通エネルギー消費（PT-CO_2排出量）の削減は必要です。

来日当初、私は日本語が全くできませんでした。位寄先生は、まず日本語の勉強をするようとすすめていただきました。日本語クラスの先生からアドバイスとサポートをくださいました。研究生の半年と修士課程の１年間、合わせて１年間半日本語の勉強や研究レポートの作成方法を学びました。日常生活も次第に快適になり、また、研究室の同僚とのコミュニケーションも良くなって、徐々にスムーズな研究を行うことができるようになりました。学校の生活以外は、日中友好協会の方々と一緒に外国人留学生向け生活支援のボランティア活動をしています。この２年間、充実した留学生活を送りましたが、私は引き続き博士後期課程に進学することを決まりました。これからの３年間、続けて一生懸命頑張ろうと決意しました。

フィリピン　　CORIAS, FLORETESS EGOS
教員研修留学生　教育学研究科・研修生

熊本での生活

私は初めて熊本の地に降り立った日を忘れることはできません。秋の冷たい風が吹く中、私が交通センターについた時は、ほとんど夜でしたが、親切な国際化推進センターのスタッフとチューターが私を待ってくれていました。 "寒い"が私の話した初めての日本語でした。熱帯の国から来た私にとって日本の気候は全く違ったものに思われましたが、時間がたつにつれ、気候だけではなく、すべてのものが新しく感じられることに気づきました。

六年前、私はJICAが主催するスタディツアーに参加し、初めて日本を訪れました。それ以来、私の日本への興味はだんだん増してきました。だからこそ、私には夢となっていたここに戻ってきています。幸いなことに、私の夢は私が熊本大学で勉強する機会を与えられたときに叶いました。

しかし、外国に住むことはとても大変です。黒髪キャンパスには私と同じ国籍の人はおらず、先輩さえもいませんでした。しかし、私には私を助けてくれる新しい友人がいて、いろんなことを楽しみました。今は多くの日本人やその他の外国人の友人を持っていますし、国際化推進センターのスタッフは親切なサポートを提供してくれます。

私がここで出会った大きな課題で、今でも苦労していることは言葉の違いです。とくに最初の数ヶ月間、多くの間違いを犯しました。今は、親切な日本語の先生やチューターの助けを借りて少しずつ日本語を習得しています。私は一学期間日本語を勉強しました。クラスはとても楽しく、興味深いものでした。

熊本大学での勉強はすばらしい学習の機会です。熊本の生活は、素晴らしい経験です。この国に来て夢が叶いました。今、日本は大きな課題に直面していますが、私はこの国と国民がこの試練を克服し、再びその強さを取り戻すことができることを知っています。サクラが咲くように、みなさんの心に咲くことを希望します。私はいつも先生から"がんばってください"という言葉を聞いていました。今、私に"みなさん、がんばってください!"と言わせてください。わたしたちはきっとできます!私が学んだこの国を第二の故郷として愛しています。

熊本大学国際化推進センターニュース第3号　　平成23年4月発行
発行者:熊本大学国際化推進センター　（〒860-8555　熊本市黒髪2丁目40番1号）
TEL.096-342-2106　FAX.096-342-2130　E-mail:gji-kikaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp
Kumamoto University